

# 地下鉄銀座線の地上出口から見える東京の断片的風景

04\_05211 大橋むつみ  
( 指導教員：安田幸一 )

1. 序 地下鉄は東京において主要な交通手段のひとつである。地下鉄による移動では車内や駅構内から地上の風景が見えず、出口<sup>\*1)</sup>で初めて地上の風景を認識する。よってそこから見える風景（以下断片的風景）は、東京の風景の一部を切り取った断片であり、かつ印象深い風景であると考えられる。本研究では、東京の主要な街を結ぶ地下鉄銀座線<sup>\*2)</sup>について、出口から見える断片的風景の構成を考察し、それらを比較することで、東京の風景の特徴の一端を明らかにすることを目的とする（図1・表1）。

2. 構図と要素からみた断片的風景の構成パターン

2-1. 断片的風景の構図 資料として出口において撮影した写真の構図と写真上の要素<sup>\*3)</sup>を抽出し、本研究ではそれらの重ね合わせを断片的風景として扱う（図2）。断片的風景における構図は、道路に対する出口の方向と、出口周辺から見える空と道路の広さの組合せ<sup>\*4)</sup>によると考えられる（表2）。出口の方向では道路と並行（78/152）、道路に対して直交（54）、道路に対して斜行（20）の3方向がみられた。構図では並行[広-広]（28/152）、並行[狭-広]（24）、並行[狭-狭]（20）、直交[狭-広]（20）が多くみられた。

2-2. 断片的風景を形成する要素の組合せ 断片的風景を構成する要素をその形状と要素へ向ける視線方向の高さにより分類した。交通高架のように視界上方に連続する上方連続要素S、街灯や街路樹のように路上に垂直に位置し道路に沿って連続する中間連続要素V、壁看板のように壁面に点在する中間点在要素d、ガードレールや植え込みのように視界下方に連続する下方連続要素H、自転車や置看板のように視界下方に点在する下方点在要素pの5種に分類できた（表3）。次に断片的風景における要素の組合せとしてア～ケの9つを得た（表4）。ア、イは上方連続要素Sを含み、アは点在要素とS、イは連続要素とSの組合せが主要素となる。ウ、エは下方点在要素pを含み、ウは中間点在要素dとpの点在要素同士、エはpと連続要素との組合せが主要素となる。オ、カは中間点在要素dを含み、オはVとd、カはHとdの組合せが主要素となる。キ、クは下方連続要素Hを含み、キはVとHの組合せ、クはHが単独で主要素となる。ケは主要素を含まない。以上、構図と要素の組合せから62通りの断片的風景の構成パターンを得た。その中には構図×要素が並行[広-広]

×ウ（10）、並行[広-広]×オ（9）、並行[狭-広]×オ（7）、直交[狭-広]×キ（7）の構成パターンが多く見られた。

3. 断片的風景の各駅の傾向と隣接駅間での比較 銀座線18駅について、前章で得た断片的風景の構成パターの各駅における傾向、隣接駅間での共通点を考察した（表5）。各駅における傾向をみると、溜池山王では[広-広]、日本橋では[狭-広]、稲荷町と田原町では[広-広]のように、各出口で構図における空と道路の広さの組合せに偏りのある駅がみられた。また青山一丁目ではキ、赤坂見附ではイ、末広町ではウのように、各出口で要素組合せに偏りのある駅がみられた。一方、外苑前、新橋では構図、要素組合せともに偏りがなく、各出口で全く異なる断片的風景がみられた。このことは各駅について周辺の風景に特有性や多様性があることを示している。銀座線全体について隣接駅間での断片的風景の構成パターの一致をみると、表参道～外苑前（エリア1）、溜池山王～上野広小路（エリア2）、稲荷町～浅草（エリア3）の3つのエリアで、2駅以上にわたる断片的風景の構成パターの一致が計16カ所みられた。特にエリア2では多数駅間にわたり構成パターの一致の重複がみられた。このことは東京の風景に連続性があることを示していると考えられる。各エリア内について隣接駅間の断片的風景の構成パターの関係性をみると、三越前～上野広小路では

要素組合せウの一致が多くみられ、構図における空と道路の面積は[狭-狭]から[広-広]へと移行している。これは地上の風景の変化の過程を示している。各エリア間の駅をみると、エリア1とエリア2の間の青山一丁目、赤坂見附は共に駅特有の要素組合せを持っている。特に赤坂見附は要素組合せイの交通高架により、隣接駅間との断片的風景の構成パターの一致がない。エリア2とエリア3の上野においてもア、イの要素組合せにより構成される断片的風景が多く、赤坂見附と同様のことが言える。これは、交通高架のような強い要素の有無により風景が途切れることを示すものであると考える。以上より東京における断片的風景の構成の各駅における偏り、隣接駅間での構成の一致の重複、移り変わりなどを考察することで、東京の風景の全体像を読み取れることが明らかになった。

4. 結 以上、地下鉄銀座線の地上出口から見える断片的風景を対象に、構図と要素の組合せからその構成パターンを考察することで各駅の傾向、隣接駅間での関係性を見出し、東京の風景の特徴の一端が明らかになった。

\*1) 本研究では地下鉄駅の地上出入口を、「出口」とよぶ。  
\*2) 本研究では東京メトロ銀座線全19駅のうち、地上にホームがある渋谷駅をのぞいた18駅の、銀座線ホームから地上に直接出ることができる152の出口を資料対象とした。  
\*3) 写真撮影の瞬間に人や自動車のように動いているものは要素から除く。  
\*4) 資料に用いた写真において、空の見える部分の面積を空の広さを検討するものとして、歩道部分と車道部分の面積の和を出口周辺の道路の広さを検討するものとして、それぞれ構図毎に平均値を用いて広狭を分類し、その組合せ[空-道路]を[広-狭]のように表す。

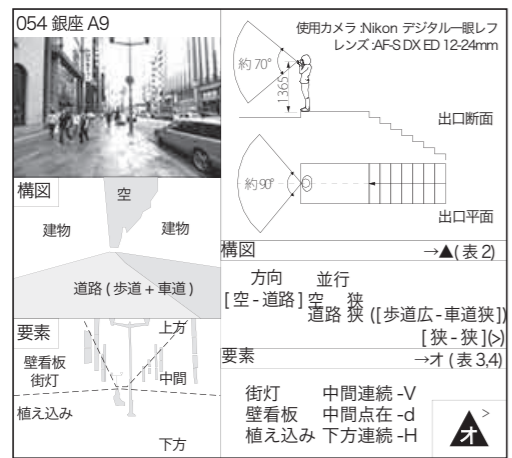


表1 資料リスト

駅名	駅名	駅名	駅名
表参道 9	新橋 7	末広町 4	
外苑前 5	銀座 25	上野広小路 5	
青山一丁目 4	京橋 7	上野 7	
赤坂見附 5	日本橋 25	稲荷町 3	
溜池山王 8	三越前 11	田原町 3	
虎ノ門 9	神田 5	浅草 10	

表3 要素の種類と分類

視線方向	連続	点在
上方	S	
中間	V	d
下方	H	p

表2 構図の分類

方向	[空-道路]			
	広-広 (50)	広-狭 (13)	狭-広 (50)	狭-狭 (39)
△ 並行 (78)	5	2	5	9
□ 直交 (54)	15	6	1	15
◇ 斜行 (20)	8	3	4	2
△ 並行 (78)	8	2	13	3
□ 直交 (54)	17	4	20	13
◇ 斜行 (20)	4	1	1	4
△ 並行 (78)	5	0	3	1
□ 直交 (54)	0	3	1	6
◇ 斜行 (20)	1	6	1	6

表4 要素組合せの例及び断片的風景の構成パターン

要素組合せ	ア (5)	イ (14)	ウ (25)	エ (16)	オ (26)	カ (16)	キ (31)	ク (13)	ケ (6)
主要素	S+d/S+p	S+V/S+H	d+p	p+V/p+H	d+V	d+H	V+H	H	なし
図(例)									
△	1	1	2	1	1	1	1	1	1
□	2	3	10	4	7	4	4	1	1
◇	1	3	4	2	3	2	2	2	2

表5 銀座線全体における構成パターン

駅名	表参道 (9)	外苑前 (5)	青山一丁目 (4)	赤坂見附 (5)	溜池山王 (8)	虎ノ門 (9)	新橋 (7)	銀座 (25)	京橋 (7)	日本橋 (25)	三越前 (11)	神田 (5)	末広町 (4)	上野広小路 (5)	上野 (7)	稲荷町 (3)	田原町 (3)	浅草 (10)
構成パターン分布	[Diagram showing pattern distribution across stations]																	
構成パターン連続箇所	[Diagram showing continuity between stations]																	
断片的風景(例)	[Photographs of station exits]																	

表4注) 表中の数字は該当する資料数を示す(全152資料)。

表5注) 表中の( )内の数字は対象資料数を示す。記号は図2、表2、表4に準ずる。